

新学習指導要領を踏まえた学習評価について

新学習指導要領が全面実施となりました。この資料は、感染防止に配慮しつつリコーダーを扱う場合の事例を基に、新学習指導要領を踏まえた指導と学習評価のポイントをお伝えするものです。



授業は、「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)を明確にし、「何を学ぶか」(指導すべき内容)、「どのように学ぶか」(指導方法※新型コロナウイルス感染症対策も踏まえて)を検討し、構想することが大切です。

【事例】: 器楽(第4学年) ※参考『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)

■ 題材名 「曲のとくちょうをとらえて演奏しよう」(教材曲:「エーデルワイス」)





■ 題材の目標 「何ができるようになるか」

「エーデルワイス」の曲想と音楽の構造との関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付けながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図をもって演奏し、リコーダーに親しむ。

■ 本題材で扱う学習指導要領の内容: A表現(2)ア, イ(ア)(イ), ウ(イ) 「何を学ぶか」

児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:【旋律, フレーズ, 反復, 変化】

■ 指導と評価の計画 (3時間程度) ※●は、学校の授業以外の場において行うことが考えられる学習場面です。

○学習内容 ・学習活動  (下線は新型コロナ感染症対策の例) 「どのように学ぶか」	場面	評価について (★記録に残す評価の場面)
○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーで旋律を演奏する。 ・旋律の特徴を捉えながら、リコーダーの範奏を聴く。 ・3拍子の拍のまとまりを捉えて体を動かしたり、楽譜を見ながらマスクをしたままで <small>小さな声で階名唱をしたりする。</small> ・範奏を聴いたり楽譜を見たりしながら、 <u>マスクをしたままで(頭部管を口にくわえないで)リコーダーの運指を確認する。</u>	学校	 知識  主体的に学習に取り組む態度
○運指や音色に気を付けてリコーダーを演奏する。 (学校の場合、十分な距離を保つ、同じ方向を向く、回数を絞る等の工夫をする。) ・運指に気を付けて曲全体を演奏する。 ・音色や響きに気を付けて、適切な息の強さやタンギングで演奏する。	●	
○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーの表現を工夫する。 ・「とんび」での学習を振り返りながら、「エーデルワイス」の曲の特徴への気付きを深める。(可能であれば、音源を聴きながら学習を進める。) ・第3フレーズ(17~24 小節)の曲想の変化について気付いたことをワークシートに記入し、曲想を捉えた表現を工夫する。 (家庭で行う場合は、ワークシートを回収し、評価する。)	●	
○前時までの学習を基に、「エーデルワイス」の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技能を身に付けてリコーダーを演奏する。 ・書画カメラ等で、ワークシートに記入した曲の特徴を共有する。 ・第2フレーズ(9~16 小節)が再び現れるという「反復」など、音楽の仕組みを捉えて表現を工夫する。(少人数のグループで、広い空間で演奏する。) ・旋律の動きにふさわしい息の強さやタンギングに気を付けて演奏する。	学校	
○グループごとに、表現を工夫した「エーデルワイス」の演奏を発表する。 ・工夫した点を紹介しながら少人数のグループで発表する。 ・各グループの発表を聴き、工夫が表れていたところについて話し合ったり、その工夫を取り入れて全体で演奏したりする。		★1  思・判・表 ★2 ★3 (知・技) ★4

★記録に残す評価について ～評価場面を精選しましょう～



観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価場面を精選することが重要です。
※記録に残す場面が設定されていない授業においても、教師の指導改善や児童の学習改善に生かすために、児童の学習状況を確認することは大切です。

評価場面	評価規準【観点】	<見取りのポイント等>	【評価方法】 引き出したい児童の姿(例)
★1	曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。【知識】	<p>【ワークシート】(曲の特徴への気付き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半, 上がって下がる旋律が反復されるところが「とんび」に似ている。 ・3段目の出だしは, はずんだリズムに変わって, 生き生きとした感じになる。 <p>【ワークシート, 発言】(表現の工夫について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2段目までは, 4小節の旋律のまとまりをなめらかに吹きたい。 ・3段目は, 生き生きとした感じが伝わるように, タンギングを変えてみよう。 	<p>【評価方法】 引き出したい児童の姿(例)</p>
	<p>家庭学習で扱ったワークシートも, 回収して評価します。</p>		
★2	旋律, フレーズ, 反復, 変化を聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さ, 美しさを感じ取りながら, 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え, 曲の特徴を捉えた表現を工夫し, どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。【思考・判断・表現】	<p>【演奏聴取】</p> <p>1, 2, 4段目は, それぞれ二つのフレーズをなめらかに演奏したり, 3段目は, 歯切れのよい感じを出すためにタンギングに気を付けて演奏したりしている。</p> <p><見取りのポイント></p> <p>音楽のよさや面白さを生み出している音楽を形づくっている要素(旋律, フレーズ, 反復, 変化)の働きに着目して曲の特徴を捉え, 表現したい思いや意図をもっているか。</p> <p>(例) 1, 2, 4段目は, 上下する旋律の動きが, 大きな山を眺めているような気分になる。3段目は, 旋律が変化するので, 他の部分よりはっきりしたタンギングで演奏しよう。</p>	
★3	リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに, 思いや意図に合った表現をするために必要な, 音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。【知識・技能】	<p>【ワークシート, 発言, 演奏聴取】(音楽の仕組みを捉えた表現の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2, 4段目はなめらかに吹けるように, 息の使い方に気を付けて演奏しよう。 ・3段目ははずむような感じだから, 他の部分よりもタンギングをはっきりさせて吹けるようにしよう。 <p><演奏聴取の視点></p> <p>【グループ練習】適切な息の強さやタンギング, 運指などとリコーダーの音色との関わりについて気付いたことを生かして演奏できているか, 旋律のまとまりを考えながら息継ぎをしたり, フレーズの中で音が途切れないように気を付けて演奏したりすることができているか。</p> <p>【発表の演奏】第1, 2, 4フレーズでは, それぞれ二つのフレーズをなめらかに演奏したり, 第3フレーズでは, 歯切れのよい感じを出すためにタンギングに気を付けて演奏したりすることができているか。</p> <p>※補助的に, 発言の内容や行動の観察, ワークシートに記述した内容を判断の参考とする。</p>	
	<p>演奏聴取は, タブレット等を活用した録音による聴取, 別室での聴取等も考えられます。</p>		
★4	曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】	<p>【振り返り】(演奏発表後の振り返り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会では, 何回も練習した3段目のタンギングが上手にできてうれしかった。 他のグループの演奏は, 4小節のまとまりを大事に吹いてきれいだったので, 最後にみんなで演奏した時は, 私も音をつなげて吹くように気を付けた。 <p><見取りのポイント></p> <p>この観点は, 行動観察を中心に, 「粘り強く取り組んでいるか」「自らの学習を調整しようとしているか」を第一時から継続的に見取る。記録に残す場面は, 題材の最後のみを設定し, 振り返りの記述を加味して評価する。</p> <p><学習状況を捉える場面の具体例></p> <p>発言内容に見られる学習内容への興味, 友達の発言に対する反応, グループにおいて表現の工夫に取り組んでいるときの様子, リコーダーを演奏しているときの行動の観察等</p>	

※使用するワークシートには楽譜を記している。